

ブラザーズ・オブ・ザ・ヘッド

2006(平成18)年12月14日鑑賞(角川ヘラルド試写室)



第7章

たまには変わった趣向で

監督＝キース・フルトン、ルイス・ベペ／原作＝ブライアン・オールディス『ブラザーズ・オブ・ザ・ヘッド』（河出文庫刊）／出演＝ハリー・トレッドウェイ／ルーク・トレッドウェイ／ブライアン・ディック／ショーン・ハリス／ハワード・アットフィールド／タニア・エメリー／ジョナサン・プライス／ジェーン・ホロックス／ケン・ラッセル（アスミック・エース配給／2005年イギリス映画／93分）

……1975年のイギリス・ロック界に彗星のように登場した、結合体双生児のロックバンド、ザ・バンバンの物語の衝撃度はきわめて大！ これはドキュメンタリーそれともフィクション……？ そんな興味を深めていく中、これが「魂のロック」というものが少しは見えてくるはず……。彼らの切り離し手術の可否を考えるに至れば、ベトナムのシャムツインズとして有名なベトちゃん、ドクちゃんが、切り離し手術に成功した後の近況について興味深いニュースがあるので、是非そのリサーチを……。

ザ・バンバンとは……？

プレスシートにある「Legend of The Bang Bang」には、1975年1月に衝撃的なデビューを果たし、同じ年の10月にはその死亡によって活動を中止したロックバンド、ザ・バンバンの物語が詳しく解説されている。ザ・バンバンは、1956年生まれの結合体双生児のトム・ハウとバリー・ハウの2人をメインとした4人のロックバンド。

胸で結合されたまま、トムがギターを弾き、バリーが歌うという異様な姿に観客がビックリしたのは当然で、観客からは容赦ない誹謗中傷が投げかけられたそう。しかし、それに抗議するかのように激しく歌うバリーの姿はロックそのものだったとのこと。ビートルズ旋風が日本で吹き荒れたのは1966年だったが、その後イギリスのロック界にこんなヒーローが存在していたことなど私は全く知ら

なかったが、こりゃすごい話。映画の中で彼らが歌う数々の音楽を聴いていると、たしかに共感できる名曲も多い。しかし、そんな結合体双生児の行く末は……？

ドキュメンタリー？ それともフィクション？

私はこの映画を観ながら、これはてっきりドキュメンタリー映画だと思っていた。スクリーン上にはザ・バンバンのデビュー後、その取材に訪れた美しい女性記者ローラ・アシュワースが登場し、ローラとトムが恋に落ちる姿が描かれる。ところが、スクリーン上には、今やすっかりおばさんになってしまったローラが同時に登場して、1975年当時のことを回想するシーンが登場するので、あれれ、と思わざるをえないことに……。

そこで鑑賞後、プレスシートを読むと、キース・フルトンとルイス・ペペ両監督は、真実とフィクションを混在させることによって「フィクション映画に従来の方法では得られない“真実味”」を出そうとしたとのこと。そして、それを「ドキュメンタリーを目指すフィクション」と呼んでいたとのこと……。

この映画について何の予備知識も持たないほとんどの観客は、みんなドキュメンタリーと思わされるのでは……？ しかしこの映画は「ドキュメンタリーを目指すフィクション」だから、1970年代のローラはタニア・エメリーという女優が演じているし、胸でくっついていたトムとバリーについても、トムはハーリー・トレッドウェイが、バリーはルーク・トレッドウェイという実の双子の俳優が演じているわけだ。いくら双子だといっても、終始胸をくっつけた状態での演技を要求された経験はもちろんはじめてだろうから、大変だったはず……。

ベトちゃん、ドクちゃんは……？ その1

シャムツインズ
結合体双生児と聞いてすぐに私の頭に浮かんだのは、ベトナム戦争で使われた枯葉剤中に含まれるダイオキシンが原因で発生したと言われているベトちゃんとドクちゃんの障害のこと。彼らは下半身がつながった状態で1981年に生まれてきたが、1988年に分離手術が行われ、それが成功し、2人は現在も生存中。ベトナムではベトナム戦争以降、他にも彼らに似たシャムツインズの発症例が多数あるらしいが、1956年にイギリスでトムとバリーのようなケースがあったことは初耳……。

ベトちゃん、ドクちゃんは……？ その2

こんな原稿を書いて自宅へ戻り、PM10時半頃『ニュースステーション』を観ていると、切り離し手術後ベトは重い脳障害を抱えてずっと寝たきりだが、ビジネスマンとなっているドクは恋人との結婚が決まったという特集を放送していた。ドクは車椅子での生活ながら日常生活には不自由なく、今なお枯葉剤によって多発する奇形児たちが入っている病院の見舞いにもよく訪れているとのこと。そして、結婚相手の女性は身障者にやさしい人で、当初その母親はドクとの結婚に反対していたものの、今はすっかり仲良くなり賛成してくれているとのこと。病院の中にいるたくさんの奇形児たちの姿にはビックリしたが、『ニュースステーション』もたまにはいい報道をするものだとしほりに感心……。また、偶然がこんなにも重なり合う不思議にもビックリ……。

ホントに手術できないの……？

映画鑑賞中私がずっと考えていたのは、あれくらい胸でくっついているだけなら、ベトちゃん、ドクちゃんのケースよりも分離手術は簡単なのではないかと。しかし、劇中で語られる医師の話の聞いていると、物理的な肉体の切り離しの難しさだけでなく、感情面の切り離しが難しいとのこと。

この映画では、トムとバリーが生まれた直後に母親は死亡し、父親はこの2人をイギリス東海岸のレストレンジ岬で世間から隔絶させて育てたが、2人が18歳の時に興行主ザック・ベダーウィックに売り飛ばして生活させたとのこと。しかし、幼児期までならまだしも、思春期や青年期になってくると、身体がくっついたままで2つの人格や感情がいつも一緒にいるなどというのは到底無理な話。やはり多少の危険はあっても、早めの切り離し手術が必要だったのでは……？ しかし、この2人の現実の人生の結末は……？ それは映画を観てじっくりと……。

ザ・バンバンの生みの親は……？

どんなバンドでもメジャーで成功するまでにはアツと驚くような物語があるのが普通だが、ザ・バンバンというバンドはいわば悲惨な人身売買から始まったよ

うなもの。そして、それはフィクションではなくホントの話……。

その出発点は、1950年代後半～60年代にかけて数々のヒットを飛ばした“音楽の王者”と言われているザック・ベダーウィック（ハワード・アットフィールド）が、映画の中で「興行主」と紹介されていることからわかるように、「身体は1つ、頭が2つの兄弟」という結合体双生児を最大の見せ物＝フリークショーとするべく、父親がトムとバリーの2人をこの興行主に売り渡したこと。2人のマネージャーを命じられたのはザックの便利屋として使われているニック・シドニー（ショーン・ハリス）であり、2人に音楽の特訓を施したのは解散したバンド“ザ・ノイズ”の元メンバーのポール・デイ（ブライアン・ディック）。

ポールは2人にギターの初歩から教えたのだが、真面目な性格のトムは意外に音楽の才能があり、ギターの腕はメキメキと上達。他方、性格にムラのあるバリーはギターではなくボーカルで才能を発揮したよう。そんなザ・バンバンのデビュー曲は『二通りのロミオ』。ポールは自らベースを担当してザ・バンバンに参加したが、「見せ物」目的で結成したザ・バンバンが、多くのファンに熱狂的に迎えられるとはトムとバリーの2人はもとより、興行主のザックやマネージャーのニックも全く予想していなかったはず……。

ロックファンは必見！

私はザ・バンバンの存在そのものを全然知らなかったが、ホンモノのロックファンなら当然知っているはず。プレスシートの中には、音楽ライターの村尾泰郎氏によるイギリスのロック音楽についての解説があるが、そこに登場する人物やロックバンドの名前で私が知っているのはほんの一部だけ。しかし、ロックファンならこの解説はよくわかるはずだし、そんな歴史の中で1975年の1年間に限って華々しく活躍した伝説のロックバンド、ザ・バンバンを描いたこの映画は必見！

2006(平成18)年12月16日記